



IVR HTTP トリガーの設定

Cisco Unity Express IVR HTTP トリガー パラメータを設定するには、IVR HTTP ベースのトリガー設定 CLI コマンドを使用します。

この章では、Cisco Unity Express IVR HTTP トリガー パラメータの設定方法について説明します。IVR HTTP ベースのトリガーは、URL サフィックス文字列とアプリケーション名で構成されます。これは後で、**application** コマンドによって URL に追加されます。**urlname <suffix>** 形式の HTTP 要求は、設定済みアプリケーションを開始し、その後 HTTP 情報をアプリケーションに受け渡す HTTP サブシステムとなります。HTTP 要求には、アプリケーションにも渡される追加パラメータを組み込むことができます。

アプリケーションを開始する前に、HTTP トリガー サブシステムでは、トリガーとアプリケーションの最大セッション制限数に達したり超えたりしていないことが確認されます。HTTP トリガーとアプリケーションの最大セッション数は、IVR セッションのライセンス数によって制限されます。サブシステムは、許容された数以上の要求を受信すると、制限を超えた要求を拒否して HTTP 503 応答を送信します。サブシステムは HTTP 要求を受信し、要求サフィックスのトリガーが設定されていない場合、HTTP 404 応答を送信します。

HTTP トリガー アプリケーションの設定

概略手順

1. **config t**
2. **ccn trigger http urlname <suffix>**
3. **application application-name**
4. **idletimeout milliseconds**
5. **locale xx_YY**
6. **maxsessions maximum-sessions**
7. **enabled**
8. **default {application | enabled | idletimeout | locale | maxsessions}**
9. **end**
10. **exit**
11. **show ccn trigger http**
12. **copy running-config startup-config**

■ HTTP トリガー アプリケーションの設定

詳細手順

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	<pre>config t</pre> <p>例 :</p> <pre>se-10-0-0-0# config t</pre>	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	<pre>ccn trigger http urlname <suffix></pre> <p>新規 HTTP トリガーが追加されると、次のメッセージがコンソールに表示された後、HTTP トリガー設定モードになります。</p> <pre>Adding new trigger</pre> <p>HTTP トリガーがすでに存在している場合は、次のメッセージがコンソールに表示されます。</p> <pre>Modifying existing trigger</pre> <p>例 :</p> <pre>se-10-0-0-0(config)# ccn trigger http urlname http://localhost:8080 Adding new trigger se-10-0-0-0(config-trigger)#</pre>	<p>トリガー URL を設定して、HTTP トリガー設定モードを開始します。HTTP トリガー名は、スペースおよび特殊文字を使用しない、文字列変数にする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定済み HTTP トリガーを削除するには、このコマンドの no または default 形式を使用します。
ステップ 3	<pre>application application-name</pre> <p>例 :</p> <pre>se-10-0-0-0(config-trigger)# application myhttpapplication</pre>	<p>HTTP トリガーが入力されたときに開始するアプリケーション名を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このコマンドの no および default 形式は無効です。
ステップ 4	<pre>idletimeout milliseconds</pre> <p>例 :</p> <pre>se-10-0-0-0(config-trigger)# idletimeout 15000</pre>	<p>アイドルタイムアウトは、HTTP 要求を廃棄するまでにサブシステムが待機する時間を指定します。このコマンドの no 形式は無効です。アイドルタイムアウト値を 10000 に設定するには、このコマンドの default 形式を使用します。</p>
ステップ 5	<pre>locale xx_YY</pre> <p>例 :</p> <pre>se-10-0-0-0(config-trigger)# locale en_US</pre>	<p>HTTP ベースのトリガーアプリケーションがアクティブになったときに、発信者が聞くプロンプトに使用する言語を指定します。ロケール値にシステム デフォルトを設定するには、このコマンドの no および default 形式を使用します。</p>
ステップ 6	<pre>maxsessions maximum-sessions</pre> <p>例 :</p> <pre>se-10-0-0-0(config-trigger)# maxsessions 8</pre>	<p>許容される着信 HTTP 要求の同時セッションの最大数を指定します。指定できる最大値は、IVR セッションのライセンス数によって制限されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同時 HTTP 要求数の最大値を 0 に設定するには、このコマンドの no 形式を使用します。 同時 HTTP 要求数の最大値を IVR セッションのライセンス数に設定するには、このコマンドの default 形式を使用します。

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 7	<p>enabled</p> <p>例： se-10-0-0-0(config-trigger)# enabled</p>	<p>着信 HTTP ベース トリガー要求の処理を有効にします。</p>
ステップ 8	<p>default {application enabled idletimeout locale maxsessions}</p> <p>例： se-10-0-0-0# config t se-10-0-0-0(config)# ccn trigger http se-10-0-0-0(config-trigger)# default application se-10-0-0-0(config-trigger)# default enabled se-10-0-0-0(config-trigger)# default idletimeout se-10-0-0-0(config-trigger)# default locale systemDefault se-10-0-0-0(config-trigger)# default maxsessions se-10-0-0-0(config-trigger)#end se-10-0-0-0(config)# exit</p>	<p>IVR HTTP トリガー値を、Cisco Unity Express IVR トリガー HTTP 設定モードのデフォルト値にリセットします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • application : アプリケーションには影響しません。 • enabled : HTTP ベース トリガー要求を有効にします。HTTP トリガー要求を無効にするには、このコマンドの no 形式を使用します。 • idletimeout : アイドル タイムアウトを 10,000 秒に設定します。 • locale : ロケールに <i>systemDefault</i> を設定します。 • maxsessions : セッションの最大数をポート ライセンス数に設定します。数を 0 に設定するには、このコマンドの no 形式を使用します。
ステップ 9	<p>end</p> <p>例： se-10-0-0-0(config-trigger)# end</p>	<p>HTTP トリガー設定モードを保存して終了します。</p>
ステップ 10	<p>exit</p> <p>例： se-10-0-0-0(config)# exit</p>	<p>グローバル設定モードを終了します。</p>
ステップ 11	<p>show ccn trigger http</p> <p>例： se-10-0-0-0# show ccn trigger http</p>	<p>指定された HTTP トリガー サブシステム設定の詳細を表示します。</p>
ステップ 12	<p>copy running-config startup-config</p> <p>例： se-10-0-0-0# copy running-config startup-config</p>	<p>現在実行中の設定を、スタートアップ コンフィギュレーションとしてコピーします。</p>

例

show ccn trigger all コマンドは、さまざまなタイプのトリガー設定を表示します。

```
se-10-0-0-0# show ccn trigger ?
se-10-0-0-0# show ccn trigger {jtapi | sip | http | all}
```

HTTP トリガー タイプの場合は、次の出力結果が表示されます。

```
se-10-0-0-0# show ccn trigger http

Name:                myhttpapp
Type:                 HTTP
Application:          myhttpapplication
```

■ HTTP トリガー アプリケーションの設定

```
Locale:                systemDefault
Idle Timeout:          10000
Enabled:               yes
Maximum number of sessions: 8
```

トリガー タイプ (JTAPI、SIP、または HTTP) が指定されていないか、または **all** コマンド オプションが選択されている場合は、すべてのトリガーの詳細が表示されます。

```
se-10-0-0-0# show ccn trigger all
```

```
Name:                  6800
Type:                  SIP
Application:           ouraa
Locale:                systemDefault
Idle Timeout:          10000
Enabled:               yes
Maximum number of sessions: 8

Name:                  6800
Type:                  JTAPI
Application:           ouraa
Locale:                systemDefault
Idle Timeout:          10000
Enabled:               yes
Maximum number of sessions: 8

Name:                  myhttpapp
Type:                  HTTP
Application:           myhttpapplication
Locale:                systemDefault
Idle Timeout:          10000
Enabled:               yes
Maximum number of sessions: 8
```